さわやかな挨拶と真剣な学び　　甲賀市立城山中学校　学校便り No.２

Shiroyama Style

第38回入学式

未明からの雨もやみ、桜満開春爛漫の４月９日、第３８回入学式が行われました。今年度より復活した吹奏楽部による演奏がながれるなか、保護者、在校生、来賓、教職員に見守られながら、元気に 121 名が入場しました。式辞では、「さわやかな挨拶と真剣な学び」の城中スローガンと入学を機に考え、実践してほしいこととして、

１、自分の行動に責任を持つこと
２、苦しさに耐えて頑張ること
３、自分の特性と伸ばすこと

の三つの話をしました。

また、新入生の言葉では、

「・・(略)・・。勉強についていけるだろうか。部活動と勉強の両立はできるだろうか。新しい友達ができるだろうか。心配なことはたくさんありますが、どんなことがあっても、私たち 121 名は共に助け合い、励まし合い、成長していきたいと思います。そして、これからの３年間を、城山中学校の生徒としての誇りを持ち、実りある中学校生活していきたいと思います。」

と力強く話してくれました。

不安は尽きないでしょうが、習うより慣れろの気持ちで、一緒に頑張っていきましょう。

修学旅行　4／24～26

どこまでも広がる青い海と空、という具合にはいきませんでしたが、沖縄への修学旅行が無事に終わりました。初日、朝の５時登校に遅れることもなく集合完了し、いざ沖縄へ。想定外の引き潮でバナナボートができなかったマリン体験になりましたが、シュノーケルでは南国の魚にたくさん出会うことができまた。

二日目は民泊体験。沖縄本島からフェリーで 30 分の伊江島は、独特の雰囲気が残る牧歌的なところでした。家業の手伝いや島の観光に加えて、三線や沖縄舞踊を伝授してもらい、沖縄料理をたらふくいただいて、大満足なふれあいの経験ができたようです。

三日目はタクシー研修。マリン体験と民泊体験が目的なら、何も沖縄まで来る必要はありません。沖縄修学旅行の最大の目的は平和学習です。タクシー研修では、多くの班が旧海軍司令部壕を訪れたようです。旧海軍司令部壕のホームページを見ると、ここを見るべき理由として、

①海軍司令基地として構築されたこの壕は、激しい戦闘の末、日本海軍が組織的戦闘の終焉を迎えた場所で、ほぼ当時のままのこされている。

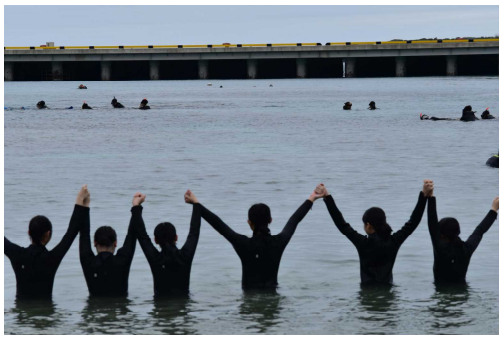
② 3,000 人の将兵が昼夜５か月間かけ、手掘りで掘った跡、手榴弾で自決した弾痕跡、司令長官が壁に書き残した文字など、当時の戦況を今に伝えている。
③戦争が激化する中、地下壕での将兵の生活状況を垣間見たり、当時の遺留品の展示や歴史を学ぶ「平和資料館」の見学で、改めて戦争の愚かさと平和のありがたさが実感できる。

と紹介されています。班によっては、講和を聴くことができたようです。聴こうとしなければ聴こえないもの、見ようとしなければ見えないものに接し、暖衣飽食の現代において、平和について各各が考えることができたようです。

（生徒感想）

『旧海軍司令部壕を訪れて』　３年２組　今村　美貴

私はタクシー研修で旧海軍司令部壕を訪れました。テレビや平和学習を通して沖縄戦について知っていたつもりでしたが、実際に見たり聞いたりすると、沖縄戦や戦争に対する印象が変わりました。施設の方のお話にあった「暖衣飽食」。暖かい家で服を着て食事ができる不自由がない生活は、現在当たり前になっていますが、七十九年前は当たり前のことではなかったと聞き、食事や住む場所があり不自由なく生活できていることを当然だと思わず、感謝して過ごしたいと強く思いました。

壕の中に入ると想像よりも暗くて複雑な作りになっていました。資料室では、沖縄戦中の家族の様子や兵士として戦いに参加することになった方の手紙や武器を見て、戦争はもう二度と起こしてはいけないと改めて感じました。

沖縄戦が七十九年前にこの地で起こったことを忘れず、また、旧海軍司令部壕を訪れてこれから誰か一人にでも戦争について伝えられるようにしたいです。